

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	たてしなふれ愛むら拡充事業
事業主体 (連絡先)	立科町社会福祉協議会 会長 米村匡人 長野県北佐久郡立科町大字芦田 2523 (0267-56-3721)
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	544,644 円 (うち支援金：427,000 円)

事業内容

- ・開催日 平成30年10月27日(土)
- ・開催場所 たてしなふれ愛園及び
たてしな人権センター前駐車場
- ・参加団体数 31団体(274名) 入場者数(700名)
共生社会の意識高揚をはかるために、区長、部落町会、町ボランティアセンター、高齢者福祉施設、障がい者福祉施設、民生児童委員会、福祉団体、保育園・小・中・高校等への説明会を実施し、参加・出店を募った。参加者主体のイベントとなるように、実行委員会形式で参加団体主体で運営し、参加団体からの意見や要望を反映した。事業の実施にあたっては、様々な交流の創出を意識し、連携を図っていきながらイベントを実施した。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①参加者主体のイベントとなるよう実行委員会形式で行った。
- ②町ボランティアセンター、高齢者福祉施設、障がい者福祉施設、自治会、民生児童委員会、福祉団体、保育園・小・中・高校等への説明を頻回に実施し、参加・出店を募った。その結果前年度より2団体増、出店ブースで6団体の増加、ステージ発表では3団体増加した。
- ③A2版のポスター、全戸配布のチラシやのぼり旗、万国旗の使用により、より多くの方にイベントを周知できた。その結果前年度より入場者が朝までの雨天にもかかわらず50名増加し、様々な世代の交流ができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後、福祉版の町民主体のイベントにしていくことを目指し、さらなる参加者の増加や発展的な展開を探っていく。共生意識の高揚及び住民同士の繋がり意識を図るため更に障がい者や高齢者・子どもなど様々な住民が交流できる場となるように意識し、人々が生き活きと暮らせる町づくりの実現にむけ、普段からの活動や事業も地域への働きかけと併せて、このイベントを継続していきたい。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【ステージ発表の様子】

【目標・ねらい】

1. 住民の共生意識の啓発、きっかけづくり
2. 実行委員が主体的に運営実施すること
3. 入場者の増加
4. 地区が参加すること

※自己評価【B】

【理由】実行委員や、参加者主体のイベントとなり、参加者団体数、入場者数共に増加した。共生意識の啓発は多少の物足りない感じがした。しかし町民の周知も少しずつ多くなっているため、次回はさらなる増加が期待できる。